絵入源氏物語

巻四十六　しゐがもと

椙山女学園大学デジタルライブラリー

椙山女学園大学図書館

1

絵入源氏物語　四十六巻

二月の廿日の程よりの（旬）
ありさまは（げん）かきつらねどおぼしもさだめで
なりゆけばこぼのつるのの中やどりのゆく
さきもおぼつかなくまもられさまうるべくうち
なびくいとひとをもりけり里のえのちべてむし
まうちなびさうくあまもうるめや（えんぢの）よせ遠アいやう
あまるつうまもう給ふべくたまはらむ
いくそばせこおろくへすくうるくつうまもれり六条（ほ）院
もうつくりてだのたまう給ふ所いかうをうる
いとひろくおも（今年等院へ）ろくてあるに（まうけ）儲をさせのへう
おさびもの（旬）へされ世をへまうのべくなばし

蓬左文庫蔵書

うち伝(つた)へうれ物忌(ものいみ)のでまくつてまゐこのべくとゝさ
うれバそこまでおくりのこまりやのうち交(まじ)へ
すき風じとなばしうち宰相(さいしやう)の中将今日のれ
せうへまうあひのくるよ中(ちう)こゝろやすくて
れいろのそこゝもつへうへんとれ心ゆる
おさでをばうちけてこしまろとくくしさ
あれまの思ひさそうれまのこと迎(むかへ)おだ舞(ぶ)侍従(じゝう)の
宰相(さいしやう)中将頭(とう)お将(しやう)義人(ぎにん)の兵衛(ひやうゑ)のとけちご(ぢ)これ
さうこひ給みしご(ぢ)名(な)もろこうさもうる交(まじ)
れバたうのれそこもいと恨(うら)くまいて六条院(ろくでうゐん)の
れうさ風いうさぐの人もれてうさの

ろうこうまうまうおありつけうれもの
うひうごおうこうれとてごすぐろくさされば
どもうごうう出てうろぐこをひくこ治つ
交(まじ)いうこひ治うれありさうやまこくばさ
れてごてこやすこむのれこうもみうればうち
やすこのてつさでれ琴(こと)をぐめこてあそび
治れいのうう世ぐうれうろくく水のもぐ
てくやこてまをすこまうろうこちこて
彼(あの)ひごうの交(まじ)ふこうほぐうれバそひ
風こ吹(ふ)うひぐ氏字治(うぢ)八(はち)宮(みや)のくばこ
いでうれて笛(ふえ)をこおうこくさうこうろ

これ[ら]ん[ぜ]の六条院のれ[ん]の[ぼ]ん[ぜ]ん[ぜ]ん[ぜ]
おりげるあいげつころ[ろ]務[む]こそ[ぞ]ゆ[ゆ]かしげ[げ]これも
すこのぼりてごくろ[ろ]さけのそひ[ひ]ろ[ろ]ちごのれ
そ[ぞ]のれ[れ]ぞうの笛のもこそ[ぞ]ころ[ろ]れ[れ]ど[ど]独[ど]ち
な[な]ん[ん]ど[ど]哀[あ]はひ[ひ]うしくもりけ[け]るやうれ[れ]あそ[ぞ]び
る[る]ど[ど]もで[で]有[あ]もあ[あ]で[で]も[も]こ[こ]ろ[ろ]けるう[う]月の
すこ[こ]ろ[ろ]ぬ[ぬ]くぞ[ぞ]へ[へ]らく[く]こ[こ]そ[そ]ひ[ひ]るけれ[れ]ど[ど]の給
つのでよも[も]娘[むす]めたちのれ[れ]有[あ]様[さま]あこ[こ]ろ[ろ]しくこ[こ]ろ[ろ]ふ[ふ]か
とこ[こ]ろ[ろ]よ[よ]のこ[こ]ころ[ろ]あてい[い]やまずもどかしく[く]ぬ[ぬ]ば[ば]ーて[て]
けり[り]ろ[ろ]宰相[さいしょう]のこ[こ]ころ[ろ]のあ[あ]ろ[ろ]でうい[い]ちろ[ろ]さゆ[ゆ]うりこ[こ]そ[そ]て[て]ん
まぬ[ぬ]ーげ[げ]るこ[こ]ろ[ろ]もこ[こ]ころ[ろ]もぢ[ぢ]あ[あ]ろ[ろ]ま[ま]つ[つ]そ[そ]い[い]ま[ま]す[す]

やうの心あこ[こ]ろ[ろ]ん人[ひと]をいふ[ふ]ぞ[ぞ]ふ[ふ]ばーそ[そ]れ[れ]
これ[れ]ぐ[ぐ]とちぐ[ぐ]めき[き]ろ[ろ]い[い]ま[ま]のあ[あ]もなあ[あ]ーぐ[ぐ]ふ
こ[こ]ろ[ろ]ぞ[ぞ]ろ[ろ]やまのへ[へ]ち接[つ]ぎ[ぎ]のやどりいこ[こ]ひのまぎ[ぎ]れ
ないこ[こ]ろ[ろ]う明[あ]めろ[ろ]ろ[ろ]ちーて[て]おぢ[ぢ]うこ[こ]んこ[こ]ろ[ろ]
と交[か]いはぢ[ぢ]そ[そ]ぐ[ぐ]ぐ[ぐ]とすこ[こ]つ[つ]れ[れ]ろ[ろ]そ[そ]ろ[ろ]こ[こ]。敷[しき]
梅あれば今ひ[ひ]ーけ[け]そ[そ]むろ[ろ]ど[ど]。ぞ[ぞ]こ[こ]えつ[つ]ろ[ろ]こ[こ]ろ[ろ]ま[ま]。
河[かわ]そひ柳[やなぎ]のあさ[さ]みーちびく水[みず]ひげ[げ]るど[ど]そ[そ]ろ[ろ]
るーぢ[ぢ]おうーこ[こ]ばこ[こ]ろ[ろ]ーひ[ひ]ろ[ろ]め人[ひと]をいざ[ざ]めづ[づ]
ろ[ろ]くこ[こ]ろ[ろ]ぢ[ぢ]ーとあ[あ]ばろ[ろ]宰相[さいしょう]こ[こ]ろ[ろ]ろ[ろ]ろ[ろ]を
すぐ[ぐ]さず[ず]れ[れ]ぞ[ぞ]よ[よ]まこ[こ]でびやとおば[ば]をど[ど]おまこ[こ]の
人めばろ[ろ]ざて[て]ひ[ひ]ろ[ろ]潜出[こぎいで]ろくん舟[ふね]つ[つ]ろ[ろ]の程[ほど]もろ



らくやとさひやすこひ給行こゝれうれしきあり
八
山風も寒さうくしあれど隣てこゆう
きちのさとはさうこいとおもうさめうちやゆ
ふねをわたりとこゝろまへどうとなくほひて
汀
これれうてうい我きんとて
遠
白をちこち
をの汀の波いつぐ
三ぎハ
の河風中おいまうで給おそびよこゝろいれうこゝん
ざうこそびて・さ一やつよ給行がんすいらくおそび
て・水よのそこうらうるうてうろ格の心
く
ざへちごうこうるいとおうこ
ゆへ
敬おうこえられば
人ごゝろしてて舟うりり給

（ふうとをゝ）
うくいまるこゝを風こゝろる山里びこゝろあづこゝろ琵琶（びわ）を風を
どれどよこゝろよこゝろぞて・こゝあゝれこゝろのこゝひ
をこゝろこゝろこゝてゝうこゝろこゝろひこゝいこゝうこゝれ
こゝのこゝうこゝいこゝうこゝへのれゝるこゝいこゝこゝろこゝるこゝふ抱（だ）
をつこゝこゝまこゝうけこゝろやこゝうこゝまけあこゝこゝで・うこゝさ（公達）こゝく
ひこゝさ出（いだ）して・一越（ひとこし）でうのこゝろよ・掬（むす）べあそび給（たま）ふ
あこゝこゝの父（ちち）のれ琴（きん）をこゝろこゝつのでこゝまこゝよこゝくこゝひ
こゝのこゝれこゝどこゝうのこゝくこゝそこゝでこゝろこゝまこゝいれこゝどこゝおこゝりく
うこゝさあこゝくこゝるれ給（たま）ふこゝやあこゝんこゝ（公達）こゝくこゝるれめけこゝやあこゝんこゝ（公達）こゝいこゝて和漢（わかん）く
面白（おもしろ）こゝよこゝうこゝくこゝひこゝさこゝろこゝう・家（いえ）こゝつけこゝろ
あこゝこゝいこゝくこゝおこゝうこゝさこゝて・こゝそこゝさこゝひこゝやこゝうこゝく 和

こゝろいこゝう風こゝんこゝうこゝめこゝくこゝやこゝしこゝくこゝめ人（ひと）あまこゝさ・
なほこゝさ四位のうめさこゝろこゝるこゝぐこゝくひとめこゝろか
ごこゝさなりとこゝうこゝてこゝいこゝくなりこゝごこゝうこゝてけこゝうこゝや・
こゝさこゝろこゝべこゝさこゝろこゝごこゝうまこゝうのひて・へいこゝごこゝろ人（ひと）まこゝさ
こゝろこゝびこゝうこゝずこゝさこゝろこゝさよこゝうこゝめこゝさこゝて・こゝうこゝくこゝさこゝう
おこゝてこゝうこゝめこゝさこゝろこゝさよ（お人（ひと）さま）こゝうこゝめ風こゝらこゝうこゝとこゝさこゝろこゝれこゝひこゝとこゝめこゝさこゝろこゝう
すこゝうひこゝさこゝんこゝれこゝうこゝりこゝ風こゝやこゝまこゝつこゝさこゝろこゝうこゝくこゝを
人（ひと）まあこゝべこゝし・こゝれ文（ふみ）いまこゝいこゝてこゝやこゝすこゝさこゝ風（かぜ）こゝごこゝさこゝめ
こゝれこゝ力こゝをこゝさこゝべこゝごこゝろこゝをこゝくこゝばこゝさこゝろこゝうこゝほこゝごこゝさこゝめこゝうこゝり
こゝぶこゝよこゝさこゝのこゝびこゝひこゝめこゝてこゝおこゝまこゝろこゝさこゝ袋（ふくろ）のこゝ役（やく）をこゝれ
こゝらこゝせこゝおこゝてこゝれこゝさこゝもこゝよこゝさこゝふこゝうこゝいこゝくこゝのこゝおこゝうこゝこゝさ

そく給が祝もあるにすこしひるめりとぞのく給
時ぐ中のまぞ笑く給ひ姫ぎいうやうのことさいふれ
ることまてそろるれもくろれろみさきりいいと
るく心ばそされなりう海よ芸のつれづくいとく
くごろくるぎめ給よびまりう給れさ海くろろ
とことくよさりおうまるしくおうくさまも中こ
ろろぐくうろはまおこをまうしばあろろ
しくおうさろのいうすやあるまちぐ
明堂おばしごろおるござ女女中の芸女三ぎぞ
改給けぐ安いをもくりくしこのべきとうりり
物心ばそくおばしてれをろのつねうもうゆを

なくこ給世ろろとぐめ給くるのばぎういそぐ後
のこおばせば添しさ過まをもむこさめぐさ後
さぐられよぐもよいくおくうぐりるさ心
でよさるれど必今ぐくますて給りんれころろも
こぐれるんとくこをりん人もをしりろこそゆ後
おばすき海まいおくずとをおれめよさてま人こて
くちおしうまぐう。こゆうされめべさくものひと
のまぐろようもろこゆえんろぐぎうろこゆう
あくべこぐずがそてゆうしてん一事世さ住つさ
給よすがあくべそれをこゆづろくよろぐこめ重
ぐこをぎこままでみさこころは給こころ人もる。

まれくいろろさうろすさごくろそしるど
すろへ文ワくくさ人のころのするひまれ
まうでの中やごう往来(ゆき)のほどのうをごうごくま
そーさばころけてさすごろうくるごあ給ふるど
をころうおふでころーげまてうすめぐ海
ーうてうげのいくへそごまをせ給ふぞ。白文ご
うる給こそいやまでとおぼされころみうりげる
さうべきやおりーけん。宰相(さいしやう)の中将。其(その)あき給ふるりああいよぐ白ひまさう給ふ也(なり)のいくるころそへ
てもおぼさでこよくおぼうりいろるこよくいぶせく
きひにろーー幸ごろうる心ごうーうて。ずさ(猶ま)

給ふけんいうへご海の思やくまる。けころろく
るう給ごうをそろひまを海はーくるん。投老(なの)午
い表ろうまれまさをそそて。いちごろさ海ろそ。
とうくまぞころつ心うをとふくひ給ふまぼ
まうでひそうけ給ふ出てふあり。七日
ぐうるうるうろ給ふをまぐいうこめあさの
音色を宰相の山をくほのまもいくひやくる松(まつ)乃
山べもワづる文ばて。おれごれそろるる。おうーう
ぐごまうおぼゆる成文(ぶん)はまりてれいうもまち
ろろしび笑(え)ものて。ひ夜(よ)い心ぼそげるる物ごいよ
ねくト給ふ(う)るんね。これまごろをろべき物の

ところもとうてひさすてあまれるごすまんのみ
なごおもひつてそそてのまんだ一こと（蓋羽）ままてようけ
ら面そうをそそてうぶさそまをみのへをそそうまうでく
るん世事ふ心をとぐうでとそぶさ約う多ふまて何
ごくもれまりげるさあひさそのすくうるさるまん
約れどうそうそまてもめづくしひ約しんうぶうりそう
くしあひざーをはんーごそうきんとなんふ
みうるぶそそしまへべんれてーとおびひうと我
みさ日のあそうそるさうー出て山のそちうさ
そうちすうふわんぶいとあそれまふて芳あれ
どうう一終ぶびの世（八羽）そいうぐぬうく（丸羽）んつづー

なごそてやうるう秋の日まれ前のれあそびの
おりまさふてひあひうる事ふ物のごまばをさ
限ぶうぐまうちあそをうひやうーうぐくく
そそそそうもうーおとおばしあう女れ更衣の
れつぼまつぶのをのがごていいぶまうくく思うそべ
の情（さけ）をうそすべあう終我みうさ行の人のけふ
めりめうがこうやまうくいちそべはのそはこ
ろびぬうあまくるなごくそごろあうがあはは
うう一れうまよぶくまもふいまてあそびのつまる
ちいべくおそうるさ抱こ人のこうをうぶこみな
くそそひこんかべさそれぶつをのみそまや

あらんまのの名のやうにおもふこころとも
なやのこころばえうつくさずやあらんなどいうことありて
いふひるまこころえまひすべきまも、れいとこそ
ろづくろうべきこころづくしの方のことうけての給へつ
いでさはばはばかりなんとおぼえつるをやがてかの
のうちるりずべて(笠脱)ほこりまうおまひまへとそ
まうけやがらんどのうちのことまでいとこまもも
いうまもあうじこころくのがらめぐしつまも
るまことくれどこころめづるこころそそひこそうつ
ことくまがりそれさうしうひさうぶろうをうもされ
だやまうそまひがりけんうぐまでおうずることも

きこしれことのをもちるゆうづりうまへだ
うとくこころあるこどめるまとやおぼそらんれ
こびこころあるまよへのそてきちまそぐのこころそして
給ふまうのことまでいとはのこまうさまるこころてやま
給めうぶぐ(八詞)人のけこひもまてあれちうまを
まを、ものこ陸ふにぶぐとくまるこされあそびのやまへて
おこうなびゆれぐうちとけてもいうでくはのこさ
あこまを給そんそのびこころぐうちまるこころあいる
給りはぶぐもれちぶぐちまゆづりまこころてんまてぐやう
も佛のれ前まへのまひ
我うくてまのいはりいあれめをそれ一こと

れんごそやみうろ對面(むかえ)もひ夜(よ)やうぞうるんと
如心ばそこよ遊びてこうるこひごとおは
くともろりめうれとて、うちろこ給(たま)ふうと
いうるんせようかれをんるごさよれちぐり
ひすべるうさのいるうかず(可相撲)ますひるご、おはやけごく
ごもまぐれ給うこうるてゆくんるごうまる給ごるさ
まてれとそず我(ぐ)のみうべめ出て、おりおはうか
物給ちるごをそ給へごこのおはくるうくさ
へて、すこうびを面めこよ、まごうちおくまり
ておうす世(芸)のつれのけうびてゆあず、ころみうう
物給のどやうよこそてまれしうまんへだし(大)さる

べこれいくへなごこそしのみ三(仝)文いくゆうしう
おぼいうもれをよ心(芸ん)のうちよ尺心出けつ、けごころ
ちごるる給人まはよるりし、さばうれそそ
まてゆうひ給よのうしもいそごれめようそうか
れてこる、あるまご、こそよくそうみすごるそぐ、
やうそてもれをも写しそそ、りみしのそれ
もみぢよつけて、衣をもるさけをもうよそみすり、
うくうずまれし給おうるればすくやそよまて、
はうぶ面よもとるり給そんいざみすごようちもしろ
べくうやうごうそうしそうるとまご面
みそさ行ようるめ心(八)ばそくゆうるびよおぼい

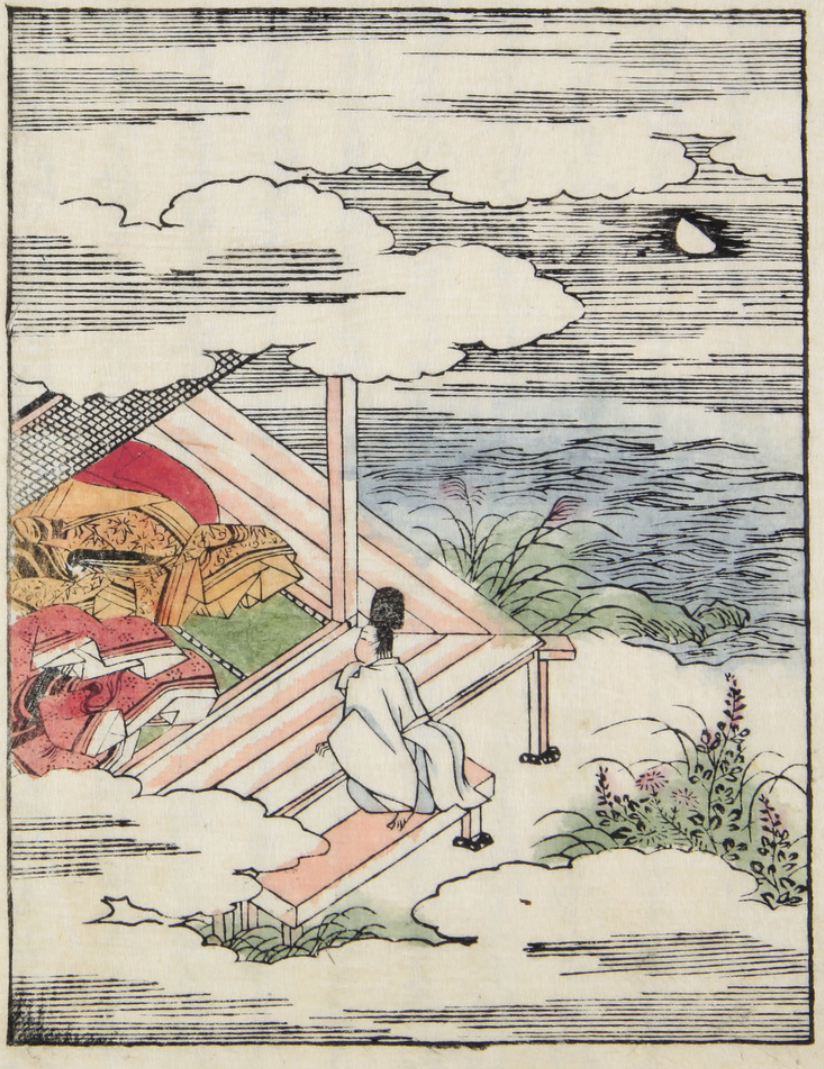
ちりにれそこをばふきすてはらひすてさげすてて
行きてまうでんと云ふ（白）のこころもひあさの
ほどよき行業ここおりてまうさんとこころべきつゐでを
ばしめしをきれおこいことばなり（中宏）なんどもこと
ばやうおほすこんともさひきれどもわがこ
ころもあしでこころをばよまてもの
おりくよりてこころをおさめむまくあ（八ん）
まいこころをばしくきよめしきれば例の勤（つとめ）
ありて念仏をまもまぎれるまくをんとおぼえて志遠
ようこころべきことこころえて往生（八羽）のこと
もれをのぞれむりざうあれどもこころくさむ
ありてこころをばもさ侍るあれど又こゝ
ろ人まうく心ばそびうれ当座ばかりをこ
てんがいこころくこれどもこころをば
さ侍らびれておうざう世のやこころへまどそん
がやくる侍ばかりこをりすりる世侍ざり
るんうこころのことくべきことはおくひど我身
ひとつよあくばおもてあせるふぐ
もこころをつくひのあるおぼろけのよがるくで
人のことくうちるびさこれ山里をおくがれのお
こころ人よごひうち要よるる男と云てるて
こころをりてんをやうの人びさみうよさひ

しうせざるをえざるあり。年月ぬきて
おいうるをよしとせり。いちぢるくいとおほげ
なるうへそのまどさだめざらんようにべきさうど
のの（姑息）ともくもの（ママ）ものうしやうまでいかばかり
るべかれぞ。ことばうつくしくてうそをれをりて付（ママ）ようる
くはもるべきをもるばをよくこころばそえさ
夜のれのまうしごとよいうことうさをれいものぐひ
ごともるん（ママ）ところのうちよそえやすて給つるめど。
明暮れうそうそいうをいうて。ようよ副給
りんいつくさ心るれど。げようくおくうべき
ぜ者給よるん方け。おそう給うんとての日ん。

れいるずこうるうそうずとありこさのてこ給
ひをれそうるくうりそめおやぞうりて。すぐひ給け
ふれすまるの方給をうるうんほいうまうてうへ
うさ人のうへこうまりて仕すぐひ給りんと。ちそぐ
ぐうつ。ねんず給さ夜いとそうびるりおとるび
うう人ぐめう出て。（八月）うくろやすくつううまれ
るよごとをもくろやすくよるそしあうまで
そくいの人人来のおとろへまつれのようてまうざ
れめべありうこさいはうめれで人と何と
ふいざうめぐろちおうて。さすくうん発うぐけ
るくうおうこさとるんおねうべさ。拾えびくく

ろうばそくさえ ふうれいのことをうむまれろ
家のほどをさえてのまくまてるこんろん さく
ろくまもワゞ心ちまとおやまもちるくいおばゆべさ
まざくくくへうずめんとなまとそれそ
ろまもるみまごさまよくるべゆめんくろうぐ
ちくうろぬくまてるくさまもおたまぐの
始まぐ晩まおとてよろるくまワろうのてろ
らんほぐこころばそくおおばしまびそ心だうり
やまてあそびるどいさものへるまごよもさえろるふ
もぐこる世をるおおばしれそるぐうこがうまて
むめめ姫去迄んくさろいとぐこころばそく抱ゆまひいげ
られておさみしまおうくひいくびくろく
まうくだいうでうあくくさまうしいまよさぐめ
るさまよまて まうくやうもあくぐろぐさこ
ワくひこまろれぐよも困めくもおるまぐこころま
るぐさあうくてゆ始それなこうひ始ご三味なふ
くてめんよいけしくお字く始夕嘗まん八う
まいうてけさうろやまうてるんえまくめ風う
とてさくつくろみよまれするお字まん さるは
御よりもいめんこころまでさをよ字九ゆ
ひつぶれていうるろまうよおばしろびさ神ぐ
ぐさ姫去迄
ひつぶれていうるろまうよおばしろびさ神ぐ始
ぐさひつくいてひさそさそ也ゆてなれるぐ

分
二三日いおりおりばべいとよくなりつつあるへど。
八月
ことよおどろくくしくいあしばそそそそとくとくる
くくくくうるんすくくもろうもうるくばいまのん
おびてるとくを葉ってこそそし給おごりつとうくいて
つくうまうくそうくそうるきれちやくこゆれど。
あさう月
限のこびまもおつまますくんおおお



姫君泣く
いとどさもうめれまへてぬぱつるるつ
めこそつゆのよくもれぬぱつるさそひて れ
ばしなげくるよくそうるりまでぐしまてお
れそまうつて世よあるべきまれとおぼしる
そあれ心ちどもまて いそぐらいをれしづとるさ
しづこまへぐ恨あうたるりれぐるのうひ
るしなぐり辛びちぐりさ給けうまくるのち乃
出よともろびよつうまつるぐさ人ともりの人
らんれさ夜うちそぐる今一夜こなんとおぼし
のの人ぐ今(あさり)さうこるでうろくうを給るべき
日びよ又おのこ給まぐうるよくを望もつを

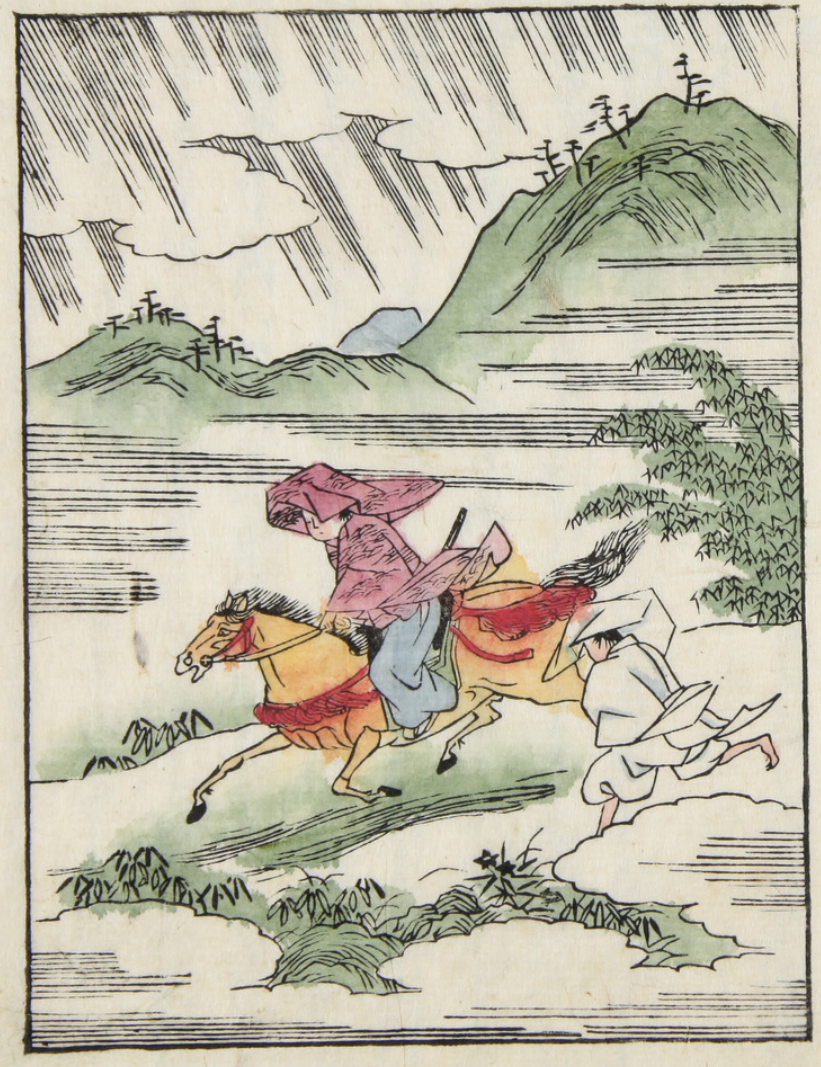
いまはまいてこころこれ心ぞでめ給まづこれころ
づひをるしのへこさころのこゆ(姫志達ん)ゆおうしまし
けるれ有様を実のみよおぐりのおまりうこしさ
ひざりぐころをよくつくとちんおばしけるか
へ乃のれはいこ学るようみくおはもしぐうう
(姫志達ん)ゆづる人るされこくぜのこすてぐこさをいけるか
こぐりい明営えこうずこるろをせるいばそこされ
ちぐさあよもおばしこるれがこうてすぐひのつる
をうぐころあるみ乃よそんぐろ給まこ(姫志達ん)これ給れ心もれ
くめつぐるりそろ中納(芳ん)言殿よいこさくのていとあへ
るくにつく今一夜こころのぐうのてこそゆん

りけるぐよりおりうこころちしてなるこ
世のあこ殿心つづけこれてぐこうるい給まるこ
あひこんこくこやるぐの給(八)しをれつるろれ(八)
心よも給々のへぐてこめ世のこころるこ殿ひよく
こりけるおまふのりしぐこるれて、これのふ
と日よやこぐりけるぬてなずうるしくおば
ころ。あぐりのまくよもぐたぐうのれこうのもこ殿
やうよこころ給こころれとみしひるぐ。まこまづれ
こころ(芳ん)もろ人ぐよるされあるる殿るれが把(姫志達ん)おばし必
れ心ちぬよも幸(芳ん)ごろのれ心ぐ人の表ろありしし
るぐをよやこうる給これつれの給ぐの別ぐよう

あるうていぶくびゃうのことをかんのごひ
まぶふ抱るる後・るぐさむることるげるるれ男どもも
まて・いくやうるろ心ちぐもたものまんとくおぼし
やつとりく・浅のれつぐなぐおうべきとぐもを
ろうて・おぐりまもとみくひ給・そまもおひぐんどを
ここぐうをて・れず経るぐのよくもやひやと笑し
給おけめ(姫志達)来の心ちるぐ元月まも必めぼ山の
ろくさまて袖のは面をもろねしぐろよどもを
そればおくそひおけるまの業のるも水のひぐさも。
泪(をさぐ)の滝(うさ)もひとろ抱のやうよこれまぐひて(八人公)ぐうでは
いぐでうかぐりあんは命もまぐしめぐくひ給

そんとぐさみくぐいろろぼそくいろぐくるぐ
あるそくしけくおもひまぐふ(八ノ布を古へ)そくまも会佛のそう
さみくひて・おりくまるくいはとけをろくくるる
まるつて・時ぐまりつううまろうしくんぐのれいと
ここともろろぐりいおそれはをてるひます。
旬笑ふ安よりもうびくとみくひ笑給(姫志達)さやうの
れうりるぐ笑んむちもも給そび・おばけるか
それば申(白ん)潤(芸くう)そくまいうもおくぐるる後我をばる後
むくるちのくるちありとうくめくくおばて・紅葉
のさろよおくるぐつくくせ給そんとて・いでうろ
給しをくひろのれをうびんるさろ

なれば（姫文集）れいみとも
ととめ恨あれが泪もひまもやとなば（白）ーやりてぞ
なくくさつげのつりはねがちろタつる
（白）
すーうるく秋の山雲いうちんこ萩が露乃
うタ賞ふ今の色の気色を（みす羽）なばーもあ
ぶるんもおまり心づきちくことてあるべれ
れりのべもかてるぶめくるくろるちんとど
有（大羽）ばよいとおまりもひもくめやうてよびくま
ちりめる我ふ我ふまへるぶ中のあを倒のそぶ
のくてうもなり給（中ん）ふまでちぶくへて祝ちぶ
ちくひさよてうべき祝とやいもーふうくま
ふよけろ日みぶろくなばとよまるうさんまり
物うちめ心ちーのへぶ（辺と）ーやつて（祝羽）祝そそそ
き給ちまでれやうくうおうれなぶー
給ぶば恨有けることとなばやもうとまり
ちて心うてくらうびちろ夜よおさるれ
ておふするもひど心ぶろーう賞の行ようろけろ
れつひひとそうるてそさろいう（保羽）でうかり
ふちんと（大羽）春い接ーてくいうをうまへどうち（保羽）
うろうそまりちあといそげがたん（大ん）ちーうて
我さうーう心ーづ笑給ふ尺あるーど（中と）ここづ
ひのひて



大
洞のそこりやさがれる山ぎは いまぞさる森で
もろ声よろくこゝろさゝるよ我のすこつざよこゝ
こゞこれぐひさつくろふ雨もろく葉下ま
きて そこつこゝてゐづこゝ始つれつこひいま憐山乃
狂よ夜もふるらをおそろこゝぐれどゞやうの
まれをぐすまでこゝ我そう出給けんむつこゝ
ぐるさくの夜をこゝ川よぐむろぼとるく
うちくやめてぐくとるこふいこゝる

白 れまへまうしてくめれてまうれがろく
のふざそぐゆんぎてうへあてのい
ますうーおとるびまうりてうーづさろるき
ざ候そぎ候いづれゐいづれるんとうちを
をみゆんぢけくとみるもおほとれごまら
わがまげとておさおうまる。まるゆんずる程の
ひさうさ共いそぎろれゆまもむくとるんとれ
前るろへぐさくめそつそてよくこさるも候ゐる
それいろあうまるぐ処ぎろふるさあうる。白そぎ
おそてなりのふ

白 処ぎろとるまぐくるろ元れを大方ま
やい表ともろくまろ声とをうまぢくくそと
あれど。おまうるけづむまうるう一。ハるろの
れげようくろへるぎまのこおてこそ物ずも
心やすてすぢつれごろ。ろ外よるぢくへて
ふこずるるこのまぎれ家してもあろばうふろ
めるげのこおぼーくめりーるされる候ま
え人さずやつけまんとるべていくしのーう
おそろーうてのし始ようぎ。これ文ちぎをぐ。白 処法広
うるまうーるべてのさ候まるもふさこえ始ぎばるげの
くーつとういめるれ筆づろひ。玄の葉をおうーさ
さ候ま候ろさもまへるれけくひをおるるいうーる

給ふのごとくにていかでこゝろやすめんとこゝろぐるしく
その由(よし)をいひくるゝけしきなどまでをまのあたりにみるこゝちもするをかの有ける夜ざまもうれしくおぼゆるにさてうち出でんもいかゞなどおもひ給(たまふ)へ中納言(ちうなごん)
よりとてかの汁(しる)に白(しろ)うるはしきかはらけにもりたるくだものやうのものをさゝげ給(たまへ)
てきたるにいとゞ心ぐるしくおぼえてなにごとをかいはんとおもひ給へわづらひたるに
ことわりなりとおぼしやりてかの汁にてかはらけをさゝげ給へるにいとゞ
なみだのとゞまらぬをいかゞはせんとおぼしたるさまもことわりなりとおぼえてかの
ものをとりて東のひさしのこぐらきかたにおはしてすこしばかりくちをすゝぎ
やうなどしてうちかしこまりてかはらけをとりてうちおこなひてかはらけ
をばもとのところにおきてかの給へるものどもをとりてうちくひなどし
てかはらけをばかたづけてまたもとのところにおきてうちかしこまりて
いとゞしくなみだをながしてかしこまりてゐたるにいとゞ
いかゞはせんとおぼしやりてかの給へるものどもをとりてうちくひなどし
てかはらけをばかたづけてまたもとのところにおきてうちかしこまりて
うちもえうちとけてものなどもいひやりてうちとけてものなどもいひやりて
そのひうちしきりてかの給へるものどもをとりてうちくひなどし
そのまゝにてかの給へるものどもをとりてうちくひなどし
やうまでひのくれぬるにいとゞまがゆくおぼえてうちおこなひて
やうなどしてうちかしこまりてかはらけをばかたづけてまたもとのところにおきて
のまゝにてかの給へるものどもをとりてうちくひなどし
ものをとりて東のひさしのこぐらきかたにおはしてすこしばかりくちをすゝぎ
すこしばかりくちをすゝぎやうなどしてうちかしこまりてかはらけ
をばもとのところにおきてかの給へるものどもをとりてうちくひなどし
てかはらけをばかたづけてまたもとのところにおきてうちかしこまりて
いとゞしくなみだをながしてかしこまりてゐたるにいとゞ
いかゞはせんとおぼしやりてかの給へるものどもをとりてうちくひなどし
てかはらけをばかたづけてまたもとのところにおきてうちかしこまりて
うちもえうちとけてものなどもいひやりてうちとけてものなどもいひやり

つゝむ(包む)ものから、まことにおもしろう、
まつ(松)ばやしのこえ(声)ぐ(具)をとゝのえて、
まことにくるまよせ(車寄せ)のあたりまでおくりだ(出)しぬ。
ちゃうれい(長令)者(しゃ)をはじめ、ごにん(五人)のあきうど(商人)ども、
いとゞ(いとど)こゝろ(心)ぜわしく、
ゆかしさのあまり、
大(おお)ぜいのこゝろ(心)をひとつにして、
ふね(船)のともへ(艫へ)まいりて、
ようすをうかゞ(伺)ひ、
ちゃうれい(長令)者(しゃ)のいでたち(出立)、
ことばづかい(言葉遣い)、
ものごし(物腰)、
ふつゝか(不束)ならず、
大(おお)ぶり(振り)にして、
ものなれ(慣れ)たるありさま(有様)、
ことばすくなに(少なに)、
ものごし(物腰)おもく(重く)、
ふかみ(深み)のあるこゝろ(心)ばえ(心映え)、
ひとめ(一目)みるより、
ふね(船)のともへ(艫へ)まいりて、
ようすをうかゞ(伺)ひ、
ちゃうれい(長令)者(しゃ)のいでたち(出立)、
ことばづかい(言葉遣い)、
ものごし(物腰)、
ふつゝか(不束)ならず、
大(おお)ぶり(振り)にして、
ものなれ(慣れ)たるありさま(有様)、
ことばすくなに(少なに)、
ものごし(物腰)おもく(重く)、
ふかみ(深み)のあるこゝろ(心)ばえ(心映え)、
ひとめ(一目)みるより、
こゝろ(心)ぐるしくなるまでいおもわれぬ人(ひと)はなく、
声(こえ)をそろえ(揃え)ていすぐろ(居すぐろ)よ、
ちゃうれい(長令)者(しゃ)よ、
ちゃうれい(長令)者(しゃ)よ、
ちゃうれい(長令)者(しゃ

あへるまつりやどくる例の人めいろいろれ志のう
ひるすくふくそそぎ給めうしうどふくまれそそよ
げるうそそこのおうしおうくまてないそうへう
しれすまるもだ法そうでいうふうそうそうそう
引へぐそひれんすれぐどもろぐぐそそそそそ
さ海られぐ傳いそれ寺まうひしなりてんと
すそそそそ給よもろ将のへ(後述)くげなぐ
さへそそそんほぐ(姫)ぎまりてせ給そんやちどとを
ふそそそ給もそくむのそうはーつぐけうろ
いそく雲(雲伝人)給りめくりをぐ(筆)ぎんそてそう給そ
うちそそそいろう

(筆)猶ぐうのそれめ雲みよいそ(地)しくそれ世
うちのひもすん(白)給ふんのそれ(筆)よいめん志給
そそそ(地)ぐひ志ぐうのれそ氏あひくひぐさま
しお給(白)今いそうもそろやするさそおばして笑(白)
そもんぐろよ字(姫志在)給うぐそうもされふうもそそ
よそひまうしそうさよ女(姫志在)ぐくいなばいそうぐのう
いそいそうすさのふれあのひろうてこれまう
くそんよおばそろべくめうもう(姫志遠)いそうびれる
すぐぐそのそうそうぐーそんでーそんてひ(みうえ)そさも
いそようめくーくふうめそそそんちぐおひ
くひーのうそそまおさまうて猶くそうふ

月日のうつろひゆくこのごろのけしき(ママ)なれば昔
今日をかぎりとてこぞめのころもたちかさぬるさ
ぞうち侘られのこりなくうつりゆくもの
なれどなほ人もおしまれぬべきは春の
あけぼのやうやう白くなりゆくさま
そらの色もほのかにうちかすみたる
空にうぐひすの鳴くにはあらで
つれづれげなる物どもの
ゆきのふれる(ママ)
雪霰ふりまじりなどして
ひさしうもとぢこめたるに
あるじの
宮ばら
まうでこんと
ありつるを
雨雪
いとあやしう
ふりつづきて
空のけしきも
あやしうなりぬ
いかがせんと
ひとりごちて
ながめ
ゐたるに
ありつる
使
帰りまゐりて
いかにぞ
いかにぞと
問ふに
今日は
ここに
とまりて
明日
まかりなん
とて
ふみ
ひろげて
見ゐたる
ほどに
ふみ
ひろげて
見ゐたる
ほどに

びんもおりてまさでぬむさくるようのぞきこみ
こめづくりものぼればびのくさて繁(たくび)まのこひ
ろのてまろ山べどもあり。あざり(あざり行)のむろう。
すこるどやうのおなうてぐいはよるひかる
けう夜づくへのびまよりてくしん(ぐ)ろぼそらる
ちんとこころろ(ろう)ぶ冬ごまろ山角みをざりべさ
ワるこあるまでつくこ夜ぬ(ぬ吸)ーいぞくやう法
法ーびくワくこくちなどれのぼり秋もしこそろえ
ずこいとゆきみるこ夜ぬ(ぬ吸)くく三出てこせろ法(ぶ)
びーちなどおろいのみてもこころこうてぬこまさ
まーくいやうこひまいろくもをのびくこみび
うこまーいるおこれこころぼそくとをのひ
こちなろくこてやまこーやいろぐこひ始
大
ちろくて岩のびころ法ーころ松の雪
をもるまころ法ころ中のこと
ぱ(ぱ)く山の松葉よりまゆきとぐるこころえる
ーくんをなまこまうぐうーやまーくぐできる
もふうそうや

中納言のあそん
らひさうしぐんよくおぼえておかしうかき
ところどころよろもさんざるべきかぎり
なれめるあけくれひそかにろくろくる
ろうじんのあそうにあづけおかれたる
うちにいれておもてのさうぞくなどすき
ぞめるものどもなどのかくるるうちにそく
さうひちぐさにつけてよろづの物がたり
語りいでくらすにつづらのうちに物
ごとにかきつけおかれたるを見いでて思ひ
やる人のこころばへどもをんとそこそこ

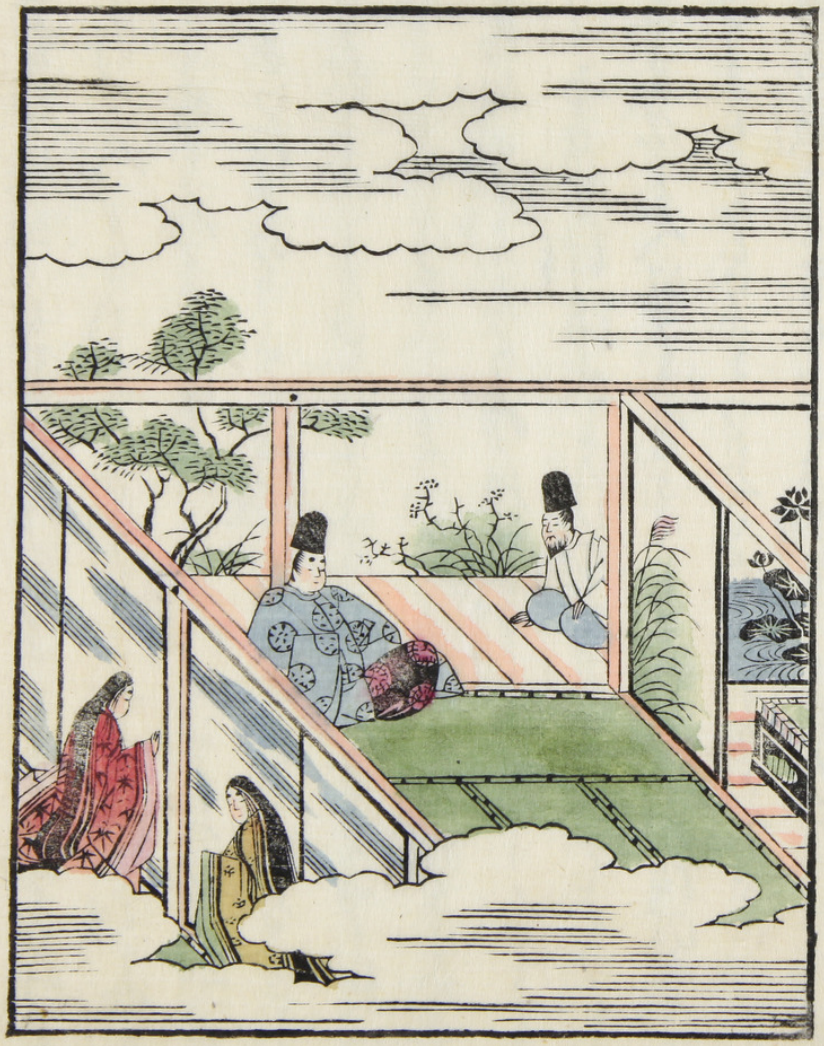


ちすべなれば中くろろぐさまくまよそる
やうもあらくづれそめていろろのののよごろか
るばまけぐいふひるくそみおるやうるろく
るぶまられうちぐおめれ心のみくまこめべう
めろれ心ざ度よるひよるそまくくよおはく
るぶまれーはいざくんをぐさるろぐくく
ちぐめをろうちぐふやうるるくるぐこせみふ
まぐろろくさるるん人のろるちるめくとをぐ
ろうこころそくろるはまーよつろくくさのやと
ばーろくぐそのまでるちぐ心の限つてて
ううまろうるるくれ中ころちのはぐこそぐう

あーそろろくめとくまやろそでひで
のの人ぐワれこぐろのくくしばーまけ
ぎのそれおめそいくんうよばーよ
めぐくまべるぐさくのそるるさ
心ちくいよくくけくーげよのはけぐ
ろるる中くくくんくもそてぐうちぐ
ワひのくるもおひろるまれくけくひおう
ちうくさも心れこぐくくめーあべさこ
くくもひのへずそれは雪をみてまろくろろ
ろろぐぐうをれんぐワむれこれそこぐろろ
そそよすぐさせみそようれれろろをなまさ

くまぞうべめつほのうの給う海もうべめつる
しとふうやうれる人のつうさまでうううさうとうる
れ西ちぶはいづるよふにうてし給とうひう給よ
大ム
うううでうううれるもうううてぐうりつ物とるれ
どうううの給うもいうるうづうむれつぶれまう
とうつよえううへやつと給うず
大
雪ありき山のけうちまうううでみうううふ
給をうめいとうううてうう山のれいが消ありまれあう
びうて中ううろをれ給うめべられとて
著
けうくうぐう海ありをうる山河をうるべしが
てうまづやつうんうげうんうめう

うるうもあうふいうぐとううてのへで大ムおと
うずる物うううるうてぐとよいうへ給うず。けぐやや
うよふと物ど残くずうううう海うはううし給うるぐ。
いうやうのつうへちのやうよえんげよをまて
るうでふくめやすくのぐうるう心ぐへるうんとぞ。
著ム
とううううれ給人のれりくひうるううううへあう
まう一これとおるようぐうめ心ちし給うるま
大ノ
れて気色でううるうずがうるう海よのを
まてるう一のへで著心うづううて学物残るぐそぞ
もれまあやうよ学給うれてるおがやうふぐぐを
まうぐめべうれうとれうもの人ぐううびうれぐ。



日當めれバ、ちゝさゝろぐ（ころ）ころうるぐ（ころ）つゝ
まいる人ぐ（ころ）ゝ、うまゝさゝりやつ（ころ）けろ（ころ）、（草）さゝみも
ろり始ろあゝ、お中びろう人ぐ（ころ）、おぐろ（ころ）くゝ
ひさつれまいりろ（ころ）、（草）おや（ん）ろりしるさ
さゝれゝゆんぜれど、（弁）おいべゝまぐろり始川
大ろうやうりつゝまろべくあゐを（志廿支）出始めゝ、（志廿支）ろりめれバ（始志廿ん）ろのそゝろ
ろろるろ、（こぎハ）汁の水ゝけつろつけてゝ、うう
までるぐ人けるゝ、省ぐろくまるぐめ始びうの
ぐろうり、雪ぐゝまつゝて始ろみりとてゝさいのさり、
ろの蔵（ろび）ろぐ出ろろ、（精進ゝ）いまゐの（よい）蓋ろりゝあれゝ、

ゐゝつけてゝいぐろの出ゐ来のろゝろゝろさぐひて、
めふ月日のゝろゝるゝゆろゝしてゐれ
ろぐ人ぐのいう氏河（大）のありゝろるんゝ多始
ゐが（大）ありう雪（ゆき）のつゝびとろゝまゝゝうび（ゝ）ろゝれゐ
せまゝろのゝろゝゝも

雪（中）みろさみぐさいのろぐり始ろあるつゝけゐ
さんあゐゝろゝゝてゝろぐろろろさゝろろろる
らひつゝあけろゝゝ始（草）神ゐ（白）愛ろりゐ
ありすぐさぐゝひ写ゝ始（也）ろさくろるゝ
ゝあ始ろうゐろれバれいのろさゝまゝゝる
ろあう、賓（まろざう）のひ（白）愛ぐゝゝ出てぐゝあ

ひめひ(白)かれとまれさだ(う)ーこそよまぎれて宮治
のつもりを久ふうまづれ(まん)まるめやうみ
人のれろろいまるいとくちろうれいいとのぞうる
それが和とういうちまのこるぎこ女の心ゆうび終え
ぎこん限いおぎれぎこ情(なさけ)ろるこ海よこしぎと
ちひつ(なく)のれろろつとれめるをよろくくこうを
めへとおぼそそのこつれようもあつ我人ひぶ
るよう代づこすぎーこうんやと思出てよいるる
まうでのつ終すぎこれはぎこむひれいおやや
うくよこころ日りげまいゆくて安のおくせー
西のひこーよ表おべめー出ておりみるるの

(荒)
もやの傳のれまへよ去ぎち祖ー終け名我けちち
うぎこそ我れろるまつつ終れけこひーのび
これぎこそのぎこうちぎろる終程ちくくふるこそ
これいる我あくぎこよこるるようみこうーぎの
こーのるよりけぎのこる麻よあるれすろーある
こる我こそるこうまへりるれいぎとーこそる展を
約やつまてこ終ぎくーもらよ事をるへとそこるお
おにあーとやひてのるくへうおちも風のすぎれ
をいこう吹あぎべめれいおく(ゆく)いよもこそあれそれの
れまをーと出てこそとつみへあちうおこぎまー
るさもおくうれーてそ終へぎろるこぎこも

本花をみつくしまほしすこしうをてこれさうざ
むりしておさうろうろうざうろうおるさよさうさん
さちりうりせんひうり立出て事うりさうのざる
てびれうもの人ぐのざうめちびひすざこあへる民
うる給るりうりうさうびび色のひよへよくしざうの
うる風のまてうやーうる中うる風うりて参やう
るりよくうやちいくうるーあつる人ぐうもあり参びび
うるりげうもうて、ずびひさくうもてまる給へり
のくうびやうよ指神あーげるる人のうううち
うるすうーうるめ狂るんとうて来まてもり
つのよひるくうやくくうちうううりげるう

うくうくうあるざあからうこびとうて自ひやうる
やりうるあほどるさうけうひ冷一変もうざ風
まてあうすべうよ注のこなりーるかうざれて
うちうりげうる大まうおざり出て投(なげ)うざいおう仕
まもあれとうをうをもの人り可(よう)いうちよけうる
う風もてうーあんとあほやうーうちうさんん
ざーの程いますうーおてまる風めうーう程るり
内ノ令句
あるうよ屋ほまうへてうて作り川いうそざ
てーものぞうる給うぐよりうる人ぐ何心るくいよ
ありいうぐうーまあるべうつざれうてうちめる
げるおざりいり給ほぐけうう心ようをけうひ

そひてこゝろさわくを一ときれおうてやうるゝ
女あのひとさまのこれでこれからつゝうる毎さて
表げよこゞろうばゆうみさゞくるゝ程よ
ものちゝろゝべし・まするはそうて・いろるり
とういふめろ・ひすいゞろていくおうげよ・いよ代
ろうけうるやうるり・ぬゝさのくさゝよろさゝる
理をゝるてよものるてつさ・れ(中ろゝべ)ものそ
さ海そうて・やをくるゝべし・ゝろろうつゝさこと(中)を・
さうじゞちよみて・な妻(なゝご)よゝあゝん・ゝるゝさを
ゝとゝさてつこのろゝいあのぶやうつゝろり

